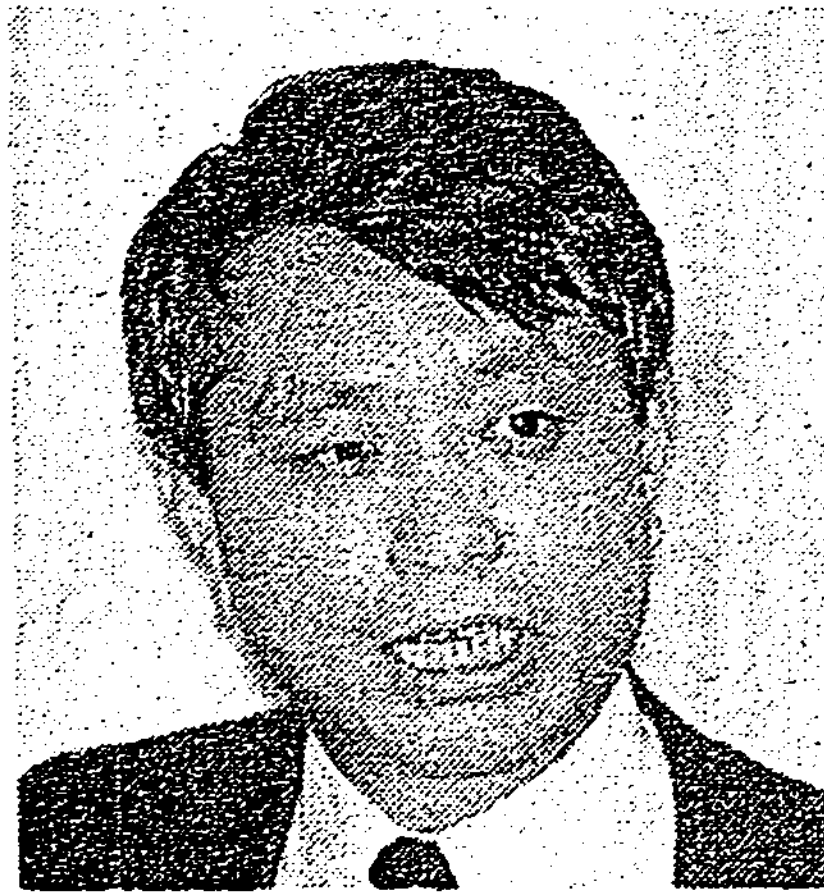


国際宇宙移動大学から

[1]



宇宙開発事業団ロケット開発本部HIIロケットグループ主任開発部員

柴藤 羊二氏

ロケットはどつすれば飛ぶのか。一番簡単なロケットは風船。膨らませてゴムが縮む時、穴から空気が出ていく反動で風船は飛ぶ。つまり、空気の代わりに、推進薬を使いガスを噴き出してやればロケ

ロケットの話



宇宙開発事業団人工衛星開発本部放送衛星グループ主任開発部員

三浦 秀一氏

世の中は、電気、磁力、万有引力という三つで成り立っている。人工衛星を考える時に問題となるのが、三番目の万有引力だ。月が地球に落ちてこないのは、地球の引力と、それを周

人工衛星の話



航空宇宙技術研究所宇宙研究グループ

上村 平八郎氏

無重力とは重力のない世界。この状態では自動車は動けないが、ロケットは動ける。なぜなら、自動車はタイヤと地面との摩擦を利用、重さが必要ならばその摩擦もなくなるが、ロケットは摩擦でなく

無重力実験の話

遠心力などを利用し

素マスクはいらない。重力を消すことは絶対に出ない。にもかかわらず無重力状態は体に変化はない。例えば、二階から一階に降りるエレベーターの中で体重を量ると、一定の早さで動いている間は体重に変化はない。

軌道がつくる面一定

回する月の遠心力が同じ状態になっているためだ。人工衛星も原理は同じ。人工衛星は、遠心力と引力が釣り合っている。軌道が一定になる。軌道が一定になるには、重力を軽くしなければならぬ。面は一定で必ず地球の中心を通っており、これを上手に利用

10年後に往還の時代

今、私はHIIロケットの開発を担当しているが、これは一、二段に液体水素と液体酸素、つまり有人宇宙船も運べるようになる。一九九二年一月がHIIの打ち上げ予定時

期。九五、六年ごろには、皆さんもつまぐりけは宇宙飛行機に乗れるかもしれない。HIIロケットは、日本の技術だけで宇宙に行くこと出来る運搬能力を持つ。あと十年もすれば、日本人が日本の宇宙飛行機で往還できる時代が来ると思う。



発行所
十勝毎日新聞社
〒080 帯広市東1条南8丁目
電話=編集②2121、広告②2323、総務・販売②2222
©十勝毎日新聞社 1987